

壁紙施工要領書

- 紙・和紙壁紙 -

【該当品番】 (2024- Lilycolor MATERIALS)

LMT-16016～16023、16172～16185

■ 特長

- ・ 楮、三桠などの自然素材を原料とした紙壁紙です。

■ 選択上の注意

- ・ 材料によって差はありますが、紙壁紙共通の透湿性、伸縮性などの特性がありますので、目開きが起こりやすい商品です。
- ・ 自然素材を主素材にしていますので、製造上色むらやジョイント部分に色差が出る場合があります。
- ・ 手加工品につき、柄合わせはできません。あらかじめご了承ください。

■ 下地調整

- ・ 商品自体の厚みが薄いので、施工後の下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・ 下地面に汚れやチョーク等による文字などが残っている場合は、除去するようにしてください。
- ・ パテは下地と同色のものを使用するようにしてください。
- ・ 貼り替えの際、裏打ち紙が下地面に浮いた状態で残っている場合は、必ず剥がしたあと施工するようにしてください。浮いた所の上で施工しますと目開きの原因になります。

※詳しくは、施工上のご注意の共通事項をご確認ください。

接着剤

- ・糊付け機を使用しての糊付けは可能ですが、刷毛等使用しての糊付けが理想的です。
- ・接着剤は原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、糊：水＝10：6にエチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度混合してください。また、塗布量は多めにしてください。
- ・LMT-16019～16021は凹凸がある商品のため、特に多めに糊を塗布してください。糊付け機でうまく塗布できない場合は、手付けでご対応ください。
- ・エチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発生時間も早くなりますので注意が必要です。
- ・濃度の薄い接着剤は、糊が吸い込まれてしまい接着力が落ちる他に、壁紙を余計に延ばして後の目開きの原因にもなります。
- ・粘りの強い接着剤を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に接着剤をつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・紙素材の壁紙は透湿性があるため、糊の付け溜めはききませんが、材料の柔軟性と施工性の向上のため、オープンタイムは欠かせません。材料の透湿度や伸縮性、気温、湿度等を考慮し、適切なオープンタイムを取るようにしてください。（材料がしんなりした頃が貼り頃です。）
- ・接着剤塗布後は、うませ時間を5～15分程度を目安に作業を進めてください。
- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ジョイント部分は重ね貼りがおすすめです。
- ・重ね貼りの場合は、部屋に入る光線の角度によってジョイントが目立つことがありますので、貼り出す順番を考慮しながら貼るようにしてください。
- ・ジョイント部分が目立ちやすくなりますので、目地取り施工またはジョイナー使用をおすすめします。
- ・ジョイント部分のなで付けは横方向には行なわないようにしてください。材料を引っ張ってしまうことになり目開きの原因になります。
- ・なで付けの際はやわらかな刷毛を、ローラー掛けの際は柔らかいウレタン製のものを使用してください。あまり強く掛けますとテカリが発生してジョイント部分が目立ってしまうことがあります。当て紙などをするようにしてください。

- ・カッターは薄刃のものを使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態でお使いください。
- ・粘着テープの使用は、テープを剥がした際に壁紙表面を破損するおそれがありますので、なるべく使用は控えるようにしてください。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。変色の原因になります。

■ ジョイント注意

- ・手加工品につき、柄合わせができません。あらかじめご了承ください。

■ 施工後

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。